

知る

1年間の締めくくりとなる74号では、情報誌『まなこ』で何を【知らせるか】について考えます。

『まなこ』で知りたい！

Happy コミュニティ・ライフの始め方



読者は『まなこ』にどんな情報を求めているのでしょうか？それを知る試みとして、'08年11月、『まなこ』編集セミナーを開催し、読者と一緒に誌面づくりについて考えました。出てきたアイデアはさまざま。でも、共通のキーワードがみつかりました。それらの意見を取り入れて、今回の特集を組みました。まずはセミナーの様子からご紹介します！

開催しました！ 『まなこ』編集セミナー

「リビングぐむさしの」新山明子編集長のアドバイスを受け、みんなで考えた74号企画——春から始めたいことは？

参加者は市報で公募した皆さん。新山編集長の編集レクチャーを受け、その後3つに分かれてグループワーク。どのグループも時間が足りないと感じるほど熱い話し合いになりました。

◆新山編集長のレクチャー

読まれる情報誌にするには…

- ・表紙（まず手に取らせる）
- ・テーマ（共感できるもの）
- ・見出し（本文がわかる・インパクト）
- ・レイアウト（余白を取る）
- ・写真（本文の5倍の情報量がある）
- ・本文（わかりやすいことば）



「皆さんのお話には【地域】【活躍の場を探している】【新しい人に参加してほしい】等の共通のキーワードがありました」と新山編集長。



佐々木さん

大場さん

菅野さん

深澤さん

◆グループワークでは実際に誌面づくりのアイデアを出し合いました。さまざまな意見が出ました。（抜粋）

- 悩んでいるのは「私だけじゃない」と知ることで楽になる。悩みを持つている人に情報を与えて、後押しをするものであってほしい。
- 子育てをしているママたちはエネルギーがある。そのエネルギーを使って何かできたらいい。
- お母さんの中の選択肢を広げてあげることが大切。お母さん支援やDV情報を載せてほしい。



藤井さん

田中さん

林さん

三上さん



金井さん

江口さん

戸田さん

佐藤さん

- 子育てで忙しい。「これからでも遅くない、何かできるんだ」と勇気を出したい。
- 子どもも中高生になって、地域とつながりが減った。地域とつながりたくてもきっかけがつかめない。
- 地域活動の仲間づくりのために、地域活動をやるとどんなにいいかアピールする。
- 若い人、シニア、今まで地域貢献していない人に始めてもらいたい！
- 地域で気軽に、ちよこつと始められるプチ貢献を知りたい。

（構成 守谷洋子）

Happy コミュニティ・ライフの始め方

これらのアイデアを受けて
今回は3つの団体と市内の
コミュニティカフェを取材
しました。

『まなこ』で知りたい!
Happy Community ライフの始め方

お父さん、出番です！ 父親ネットワークづくり事業
市民団体 プレーパーパークむさしの

’08年7月、武蔵野市初のプレーパーパークとしてオープンした境冒險遊び場公園。その運営をしている「プレーパーパークむさしの」は、お父さん対象のさまざまな講座を企画してきた。代表の池田泰さんに話を聞いた。

「子どもの環境をよりよいものにしていくために、地域の住民同士お互い顔の見える関係が大切」
「普段はあまり地域で活動することのないお父さんたちに地域の友だちをつくってもらおう」と、活動に取り組んできた。ダッチオープン料理体験、ベゴマ、パパたちによる絵本の読み聞かせ、ツリーデッキづくり。今後は、もっと気軽に参加できる焼き芋会のような企画を重ねていきたい、と池田さん。

いつ来てもいい、来なくてもいい、という「ゆるやかな参加」。そして運動会のお手伝いのような「ちよつと手伝って」という役目が、お父さんた



お父さんたちがトライ！ダッチオープン料理。



●プレーパーパークむさしの
「境冒險遊び場公園」(境3-20)を拠点に、プレーパーパークに関する事業を行う市民団体。
活動日：水曜日から日曜日
10:00～17:00
(11～3月は16:00まで)
TEL/FAX：26-9317
E-mail:p-musashino@kfy.biglobe.ne.jp
URL:http://p-musashino.org

この参加を促すキーワード。新しい二つの倉庫も、ツリーデッキづくり受講者にメーリングリストで声をかけて、集まった人でつくってもらったそう。二度参加したら楽しかった、でいい。そうやって地元で居心地のいい場をつくる、地域にかかわる、ということが、自分の住んでいる街の魅力、価値を高め、自分の成長にもつながっていく気がする。こう語る池田さん自身、地元の小学生と中学生の二児の父親だ。

「最近の子は、そこで遊んじゃダメ、というところすぐやめちゃう」。自分が子どもの時のように、大人の目をかいくぐって遊ぶ、そんなことも伝えたい。そのためにはどんな声をかけたらいいか。ときには見て見ぬふりも必要だとか。

人と関わり、遊びながら成長するのは子どもたちだけではなさそう。ママたちとはひと味ちがう、パパたちのゆるやかなネットワークの芽生え。今後の展開が楽しみだ。

取材 清原理恵(文)



●『パパのちから』
(’09年1月発行)
子育てを楽しむパパの声や写真が満載。

*プレーパーパーク
どろんこ、水遊び、木登りもOK、子どもが水、木、土を使って自由にのびのびと遊べる遊び場。プレーパーパークが子どもを見守り、時に一緒に遊び、子どものやりたい気持ちを後押しする。

■『まなこ』読者50人に聞きました！

Q1 地域で参加している活動がありますか？(複数回答)



- 1位 子育て …… 15名 (PTA・あそべえ・年少協等)
- 2位 趣味・文化 …… 10名 (コーラス・生け花・スポーツ等)
- 3位 地域の活性化 …… 9名 (コミセン活動・ジャンボリー等)
- 4位 環境保護 …… 6名 (美化活動・外環問題等)
- 5位 防犯・防災 …… 5名 (パトロール等)
- 6位 介護 …… 3名 (障がい者サポート・介護活動等)
- その他 (『まなこ』レポーター・少年野球・憲法問題勉強会・語学学習等)

Q2 地域でこれから始めたい活動がありますか？(複数回答)



- 1位 趣味・文化 …… 7名 (音楽・スポーツ・読み聞かせ等)
- 2位 子育て …… 2名 (子どもエコクラブ)
- 地域の活性化 …… 2名 (飲食店)
- その他 (防犯・介護・障がい者支援・国際交流・美化活動・防災・シルバー人材活用)

Q3 地域の活動に参加しない/できない理由は？

(Q1・Q2がどちらもNOの方に聞きました)

- 1位 時間がない …… 12名
- 2位 参加の仕方がわからない …… 5名
- その他 (知り合いが少ない・興味がない・きっかけがない・面倒・活動の情報がない)

Q4 地域で活動をするために、どんな情報やサポートがあったらいいでしょうか？

- ・地域で活動をしている団体の一覧、その団体の活動時間や年齢層などの情報。活動の雰囲気が見えるような写真があればなお良い。
- ・団体間の情報交換やネットワーキング、仲間集めや今後の活動について相談できる場所。
- ・大学や専門学校と地域の活動の連携。
- ・平日仕事をしている人も地域活動できるような仕組み。
- ・地域で活動している団体が集まり、各団体の紹介をしたり、ブースを設けて勧誘する場を設ける。
- ・地域活動情報をメール配信。
- ・活動を立ち上げるための情報。
- ・地域の活動一体験や、活動の内容が具体的にわかるようなワークショップの開催。
- ・行政のサポートは場所や資材の提供にとどまる。人との信頼関係は自分でつむぐしかないと思う。
- ・介護や環境保護に関することなど、勉強が必要なのは受講料の補助があれば。
- ・子育てについて若い母親が切実にほしいと思う活動が何なのか、意見を吸い上げるために若い人たちと意見交換していく場。
- ・コミセンから情報が入りやすいので、各コミセンの横のつながりがもっとあればより有効では。